

【産地報告】

鹿児島県本土で見出されたツシマスゲ（カヤツリグサ科）

矢野興一^{1,*}・丸野勝敏²・田金秀一郎²

¹岡山理科大学生物地球学部 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1;

²鹿児島大学総合研究博物館 〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30)

Okihito YANO^{1,*}, Katsutoshi MARUNO² and Shuichiro TAGANE²: A new locality of *Carex tsushimensis* (Ohwi) Ohwi (Cyperaceae) from the mainland of Kagoshima Prefecture, Japan

¹Faculty of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, Ridai-cho 1-1, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama 700-0005, JAPAN; ²The Kagoshima University Museum, Kagoshima University, Korimoto 1-21-30, Kagoshima-shi, Kagoshima 890-0065, JAPAN)

*Corresponding author: oki.yano@gmail.com

(2023 年 9 月 26 日 受理)

Abstract:

Carex tsushimensis (Ohwi) Ohwi (Cyperaceae) is found from Kagoshima City, Kagoshima Prefecture, Japan, which represents the first record on the mainland of the prefecture.

はじめに

ツシマスゲ *Carex tsushimensis* (Ohwi) Ohwi (カヤツリグサ科) は、林縁や林床に生育する多年生草本である。本種は長崎県（対馬市対馬、西海市松島、西彼杵郡長与町）、佐賀県（唐津市馬渡島）、鹿児島県（三島村黒島）および韓国（全羅南道 Gageo Is.）に分布する（中西 2011, Nam et al. 2014）。このうち、日本国内では対馬以外のものは、雌花穂の柄が短く、苞が花穂より長く、果胞の脈がやや細く、清水（1990）がマダラシマスゲ（仮称）としている（清水 1990, 中西 2011, 勝山 2015）（以下、マダラシマスゲ型とする）。また、韓国のもも Nam et al. (2014) の図や写真から、雌花穂の柄が短いことが顕著であるためにマダラシマスゲ型と思われる。

鹿児島県では、これまでにマダラシマスゲ型のツシマスゲが三島村黒島のみ分布していることが知られている（すげの会 2018, 鈴木ほか 2022）が、鹿児島市で 2023 年に著者の一人丸野によってツシマスゲが採集された。鹿児島県本土ではこれまでにツシマスゲの記録がなく、鹿児島県本土での初記録と考えられることから、ここに報告する。

鹿児島県本土産のツシマスゲ

今回確認した鹿児島県産のツシマスゲは、2023 年 5 月 8 日に鹿児島市内で採集された標本（K. Maruno s.n., KAG183095, OKAY-25184）であった（図 1）。

植物体は叢生し、基部の鞘は褐色を帯び、繊維状にさける。葉は幅 3–6 mm。有花茎は

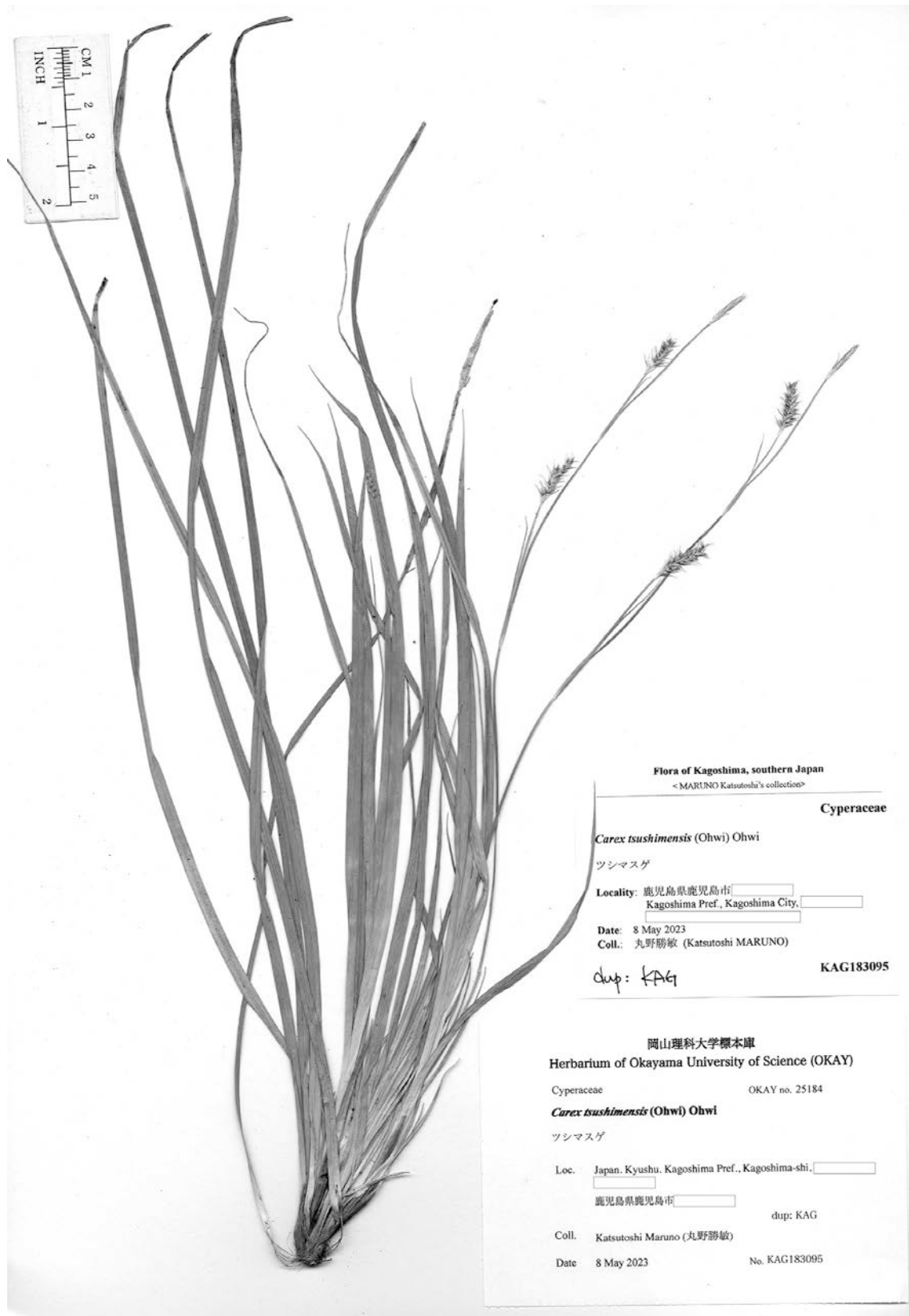


図 1. 鹿児島県鹿児島市産ツシマスゲ (K. Maruno s.n., OKAY-25184).

高さ 20–40 cm で上部はざらつく。苞は有鞘で花穂より短い。頂花穂は雄性、紡錘形、長さ 1.5–2 cm で長い柄がある。側花穂は雌性、2、3 個が離れてつき、円柱形、長さ 1.5–2 cm で長い柄がある。雄花の鱗片は緑白色で芒がある。雌花の鱗片は緑白色で凹頭、果胞より著しく長い芒がある。果胞は長さ約 3 mm、明瞭な脈があり、有毛、嘴の口部が 2 小歯となる (図 2A)。瘦果は果胞に密に包まれ、菱形、3 稜が顕著で基部の面がやや凹み、長さ約 2 mm、頂部に環状の付属体がある (図 2B)。柱頭は 3 岐。



図 2. 鹿児島県鹿児島市産ツシマスゲ(K. Maruno s.n. OKAY-25184)の果胞(A)と瘦果(B).
スケールバーは 1 mm.

鹿児島市で採集されたツシマスゲは雌花穂の柄が長く、苞が花穂より短く、果胞の脈が細くないことから、マダラシマスゲ型ではなく、ツシマスゲそのものであった。マダラシマスゲ型以外のツシマスゲの分布は、長崎県対馬のみとされており(星野ほか 2011, 中西 2011, すげの会 2018)、今回鹿児島市から見出されたマダラシマスゲ型ではないツシマスゲは、鹿児島県はもとより、対馬以外の国内新産地であると考えられる。

2023 年 8 月 6 日に今回確認されたツシマスゲの生育地を確認したところ、標高 340 m のマテバシイ、スダジイ、シロダモ、ハクサンボク、ヒサカキ、アオキ、ネズミモチなどが混生する比較的若い二次林の林縁(図 3A)で、ツシマスゲは二次林と草刈りをされた草地の境界部分に沿ってのみ、50 個体未満が確認された。日当たりの良い草地には、ナキリスゲ、ホシダ、ゼンマイ、ツワブキ、ヤブミョウガなどが生育していた。



図 3. 鹿児島県鹿児島市におけるツシマスゲの生育地 (A, B) と葉の基部 (C).
2023 年 8 月 6 日撮影.

ツシマスゲ（マダラシマスゲ型を含む）は、産地が限られていることから絶滅が危惧されており、環境省のレッドリスト2020（環境省ホームページ）では「絶滅危惧II類」、鹿児島県では黒島の集団を対象に「絶滅危惧I類」とされている。したがって、今回報告する鹿児島県本土産のツシマスゲは、国内や鹿児島県における分布とその保護・保全のための基礎データとして重要である。

証拠標本

証拠標本は鹿児島大学総合研究博物館植物標本室（KAG）およびその重複標本が岡山理科大学植物標本庫（OKAY）に収蔵されている。ツシマスゲは絶滅危惧植物であるために、詳細な情報や地名は省略した。

鹿児島県. 鹿児島市（丸野勝敏 K. Maruno s.n., 8 May 2023, KAG183095, OKAY-25184）.

謝辞

本研究の一部はJSPS科研費（22K05697, 研究代表 矢野興一; 21K06307, 研究代表 田金秀一郎）の助成を受けて行いました。

参考文献

- 星野卓二・正木智美・西本眞里子 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778 pp. 平凡社, 東京.
環境省ホームページ. 別添資料3 環境省レッドリスト(2020).
(<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>, 2023年8月25日閲覧).
- 勝山輝男 2015. 日本のスゲ 増補改訂. 391 pp. 文一総合出版, 東京.
- 中西弘樹 2011. ツシマスゲの新産地とその分布. 莎草研究 (16): 73-76.
- Nam, G. H., Kim, J. H., Kim, J. H., Kim, S. Y., Jang, J. and Chung, G. Y. 2014. First record of *Carex* sect. *Mitratae* (Cyperaceae) from Korea: *Carex chungii* Z. P. Wang, *Carex tsushimensis* (Ohwi) Ohwi and *Carex multifolia* Ohwi. Korean J. Pl. Taxon. **44**: 33-38.
- 清水孝浩 1990. 九州産スゲ属植物ノート (3) ツシマスゲ. 福岡の植物 (14): 23-33.
- すげの会 2018. 正木智美 (編), 日本産スゲ属植物分布図集. 766 pp. すげの会, 岡山.
- 鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西亘 2022. 鹿児島県の維管束植物分布図集—全県版—. 526 pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.